

真宗総合研究所

◇真宗学事研究会

三月二十三日(水) 午前十時

於 会議室(研究所内)

「真宗大谷大学の意義」

囑託研究員 桜部 建氏

◇海外仏教研究研究会

*十二月一日(火) 午後四時十分

於 会議室(研究所内)

“Buddhism's Contribution to the Religious and Intellectual Thought of Mankind

—through a Review of Its Doctrine of Anatta—”

ケラニア大学教授 Y. Karunadasa 氏

*三月一日(火) 午後三時

於 会議室(研究所内)

「アーラヤ識と深層心理学の無意識」

大谷大学研修員

William S. Waldron 氏

*三月十七日(木) 午後三時

於 会議室(研究所内)

「ヨーロッパの仏教研究」

国際仏教学研究所長 湯山 明氏

◇海外仏教研究連続講義

十二月八日(火) 午後四時十分

於 小会議室(研究所内)

“The Central Conception of Early Buddhism”

ケラニア大学教授 Y. Karunadasa 氏

◇研究所委員会

一月十八日(月) 十二時

於 小会議室(研究所内)

一、昭和六十三年年度一般研究の選考につ

真宗学会

◇卒業論文中間発表会

十二月二日(水) 午後二時三十分

・真実教の開頭 四回生 池田 徹

・易行道の開頭 四回生 岡田 克

・信心の行者 四回生 金子 徹

・すなわち願作仏心を度衆生心と名づけ

たり 四回生 下野 真人

◇研究例会

十二月二十二日(火) 午後四時三十分

於 講堂棟多目的ホール

「我元仁元年」の意味するもの

博士課程三回生 萩原 晃俊

相応の道 本学教授 神戸 和麿

◇研究例会

一月二十五日(月) 午後四時十分

於 講堂棟多目的ホール

親鸞の二種回向観

本学講師 一楽 真

*発表終了後昭和六十二年度例会反省会を行なう。

仏教学会

◇仏教学会公開講演会

十二月七日(月) 午後四時十分

尋源講堂にて、龍谷大学教授渡辺隆生先

生をお招きし、『成唯識論』の性格と思

想の特徴」という講題のもと公開講演会

を開催した。

◇研究発表例会

十二月十五日(火)午後四時十分

於 多目的ホール

研究題目及び発表者

「最澄の法相批判」

博士後期課程二回生

片桐 恵学氏

「判比量論の因明」

教授 長崎 法潤氏

◇卒業論文・修士論文梗概発表会

一月二十一日(木)午後四時

於 多目的ホール

多数の論文提出者が、論文テーマについて要旨を発表し、議論がなされた。発表終了後、学生食堂にて送別懇談会を開いた。

西洋哲学会
倫理学会

◇西洋哲学・倫理学会講演会

十二月八日(火)午後三時

於 尋源講堂

ジョン・ロックの道徳論

大阪大学教授 塚崎 智氏

出席者 訓覇教授・鈴木教授・池上助教

授・須藤専任講師はじめ特修員、院生、学生あわせて四十数名。講演の後、熱心な質疑応答が行なわれ、終了後茶話会ももたれた。

◇哲学会談話会

二月十八日(木)午後一時

日本宗教の複合的性格——北陸真宗門徒の行動様式を中心として——

本林 靖久

カントの美的判断力の批判の研究

——合目的性と美的満足——

仲村 哲一

カントの目的論と宗教論

野島 孝司

出席者訓 覇教授・鈴木教授・武田教授・

西井教授・松村助教・池上助教・

須藤専任講師の各先生方および学生、

院生合わせて約三十名。

◇大谷大学哲学会より『哲学論集』第三四

号が刊行されました。会員以外の方にも

一部五百円で頒布しておりますので、第

二研究室までお問合わせください。

*目次

責任について——責任感を手掛かりにし

て—— 鈴木 幹雄

R・オットーとP・ティリッヒ

——『聖なるもの(Das Heilige)』をめぐって—— 藤本 淨彦

シラーにおける人間性の完成としての美

デュルケムとベルクソン——近代合理主義再考—— 寺林 脩

一九世紀英国における国立科学学校の設立と発展——政府立鉱山・応用科学学校からロイヤル科学カレッジ・ロイヤル鉱山学校へ——(一) 広瀬 信

海外報告

ドイツ遊学雑感——デュースブルクにて—— 土戸 敏彦

宗教学会

◇宗教学会秋季講演会

一月十六日(土)午後一時より三時半

於 多目的ホール

ヨーロッパの死者儀礼

京都府立医大教授 鯖田 豊之氏

多数のスライドを通して死者の埋葬、特に墓制の相異を時代的、宗教的(カソ

リック、プロテストスタント、イギリス国教会)、民族的な観点から分析され、非常に興味深い講演であった。

社会学会

◇社会学会公開講演会

十二月九日(水)二時半

講師 八木秀夫氏(神戸商科大学教授)

テーマ

「アメリカの生活——社会的視点から——」

於 尋源講堂

岩田教授、松村助教授、千葉講師はじめ、学生・院生八〇名参加。

教育学会

◇教育学会講演会

十二月十一日(金)

講師 鹿島和夫先生

テーマ

「子どもの心に学ぶ」

於 講堂棟多目的ホール

大井、大竹、田中教授、佐々木助教授、大西講師、斎藤助教授、特修員はじめ、

二五〇名近く参加。講演会終了後、座談会も開催。

国文学会

◇『文芸論叢』第三十号発行

(掲載論文目次)

『春の日』の暦日

国立国会図書館 『出定後語』 題詠考

再論・『平家』慈心房説話の背景

院政期の古今集序注と日本書紀注積書——

勝命『真名序注』を中心に——

御巫本・鈴鹿本大和物語の本文改変について——

て——敬語を手がかりとして——

白居易と廬山草堂

両足院本『東坡集』校勘記(一)——東坡和陶

詩(下)——

〈資料紹介〉

『淡州安寛寺薬師如来縁起』

山本 唯一

水田 紀久

渡辺 貞麿

赤瀬 知子

新間 水緒

平野 顕照

吉井 和夫

糸 穂子

中国文学会

◇中国文学会学術公開講演会

十二月十四日(月)午後一時

於 尋源講堂

(講題)

詩人と花

佛教大学教授 岩城 秀夫氏

平野教授・河内教授・若槻教授の他、非常勤講師の西野貞治先生、院生・学部生および一般来聴の方々など多数参加。

◇中国文学会一夜研修会

十二月十四日(月)夕刻〜十五日(火)正后

於 かんばる京都

参加 平野教授・河内教授・若槻教授、特修員、院生・学部生 計二十七名。

両日にわたって四回生の卒業論文の中間発表を中心に忌憚のない意見が提出され、有益であった。

◇第十一回 碩学の話聞く会(中国文学会共催)

三月二十六日(土)午後二時

於 尋源講堂

(講題)

西欧科学と近世の中国・日本

京都大学名誉教授 藪内 清氏

独文学会

◇大谷大学独文学会公開講演会

十二月五日(土) 午後一時

於 博綜館第四会議室

「ポストモダンとドイツ文学」

京都大学教授 内藤 道雄氏

出席者 岸教授、友田助教授、禿専任講

師、学生多数

◇「ゲーテ自然科学の集い」京都研究会

十二月十九日(土) 午後一時半

一月十六日(土) 午後一時半

〈研究題目〉

ゲーテの「植物変態論」

参加者 関西地区大学の教員十五名

◇大谷大学独文学会研究旅行

二月二十三日～二十五日

行き先 城ノ崎

目的 卒論の講評と二、三回生の今後

の研究指導

参加者 岸教授、友田助教授、禿専任講

師、学生十四名

短期仏教科

◇「仏教研究紀要」第十号発行

目次

仏道をならう

青い山 寺川 俊昭

卒業研究要旨

面接指導担当者一覧

卒業研究

研究課題名及び卒業研究提出者一覧

短期国文科

短期国文科

◇秋季史蹟見学ならびに補導懇談会

*二回生A B C D Eクラス。十二月二十二

日(火)。鞍馬・貴船方面。石橋助教授、

喜多川助教授、沙加戸専任講師、後小路

専任講師、赤瀬助手。学生四十六名。

◇「大谷大学短期大学部・国文科紀要」第

十号発刊

〈目次〉

巻頭言

片岡 了

「菊花の約」考——冒頭部の解釈について

大塚 政子

『文鳥』にみる漱石の『深刻な人生』

帰度 義枝

中島敦研究——「わが西遊記」をめぐって

土肥由貴子

『源氏物語』一考——葵の上を中心に——

頓宮智瑞子

樋口一葉研究

三和眞理子

右五編の秀作の後に、卒業生全員の論文

要旨(各八百字)を掲載した。

〔三月十日刊 B5判 一四五ページ〕

幼児教育科

◇仏教保育総合研修会

十二月十九日(土) 午前九時～

二十日(日) 正午(一泊)

於、大谷婦人会館(鳥丸六条西入)

《研修テーマ》育つ・育む・共に生きる

《参加者》幼児教育科在学学生、関係教職

員

第一日目

午前：開会式・勤行のあと、賢愚和楽・

自然随順・物心自立・後継養成を村是と

する老荷村及び、精神薄弱者更生施設一

表寮での見学報告。(スライド、リポ
ト)

午後：基調講演

講師：田村一二先生(茗荷会代
表)

グループ別学習(座談会)

第二日目

東本願寺晨朝参拝。全体会。

◇『卒業研究』第二十一集発刊。

二回生の「卒業研究」レポートの要旨を、
各自約千三百字で掲載。